

## 図書紹介

インドネシア西ジャワ州グヌン・ハリム国立公園の薬用植物 (K. Harada, M. Rahayu, A. Muzakkir : Medicinal Plants of Gunung Halimun National Park, West Java, Indonesia). JICA 生物多様性保全プロジェクト刊, 135 pp, 2002, 連絡先 : Tel./Fax. : +62-21-8765066. e-mail : bcpjica@indo.net.id

本書はインドネシアで1995年から実施されているJICA生物多様性保全プロジェクトの中で行われた現地環境教育に資する活動として、公園関係者並びに地元住民の代表者らの参加・協力を得て実施したグヌン・ハリム国立公園の薬用植物についての野外調査の成果物としての図鑑である。調査は、国立公園内で周辺の人々に利用されている植物を正確に記録し、森林から享受している恩恵に対する一般の人々の認識を高め、持続可能な森林経営のもたらす恩恵に対する理解の向上に資するために実施された。

同国立公園は1992年に設立され、広さ4万ha、多様な種類の動植物が生息・繁茂し、豹、ジャワテナガザル、ジャクマタカ等の絶滅の危機に瀕している動物も生息しているジャワ島では最大の山岳部熱帯雨林を擁する国立公園といわれている。これまでは比較的良好的な保全状態にあったが、近年、違法伐採や金の採掘が行われ環境破壊が危惧されている。

野外調査は、1998年から2000年にかけて集約的に行われ、対象地には46の村々が在り、主にスダ人の居住地である。調査の結果、同国立公園の周辺村落の住民の間では、400種の植物を食物、住居建築、農耕資材、薬用、燃料用として日常生活に利用していることが判明した。

図鑑はその内、地元住民が伝統的に利用してきた薬用植物117種について、学名のアルファベット順に、1種当たり1頁にカラー写真、地方名、科名、主な生育場所、植物の形態と生態が簡潔に記述され、薬用効果がある対象症状と利用方法が最後に記述されている。また、末尾の索引を利用すると、学名及び地方名のどちらからでも対象植物を調べることができるよう工夫されている。

最近では伝統的知識の現代的活用という意味あるいは新薬の原料として熱帯天然林の植物が注目を浴びてきているが、実際には現地の人々が利用している植物を正確に記録するという地味な作業が意外に実行されていないと感じられる。熱帯天然林が残り少ないジャワ島で、このような試みが行われ、取りまとめられたことは、意義が高いと評価できる。本図鑑は多くの草本種も掲載されており、熱帯天然林を構成する植物全体に視野を広げる契機となる意味でも興味のある刊行物である。  
(松井房子)